

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

がん診療連携拠点病院の相談支援業務の整備指針の対応状況と院内外の支援に関する研究

研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（部長）
研究協力者 齋藤 弓子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（特任研究員）
研究協力者 小郷 祐子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（専門員）
研究協力者 高橋 朋子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（研究員）
研究分担者 八巻 知香子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（室長）

研究要旨

本研究では、がん専門相談員（以下、相談員）からみた整備指針上求められる相談支援業務の対応状況と院内外の支援状況との関連を検討し、今後の体制整備の示唆を得ることを目的とした。2023年3月～4月に、相談員を対象に匿名自記式のWeb調査協力を依頼し、整備指針上求められる相談対応業務（予防・検診、がんの一般的/共生に関する情報提供、他部門/施設との連携を含むがんゲノム医療、希少がん等の相談対応）22項目の対応状況と、相談対応時の院内外のサポートを尋ねた。

調査協力の同意が得られた相談支援業務に従事する465名のうち、整備指針に関する22項目について11項目（5割）以上で対応できていると回答した者は、149名（32.0%）、16項目（7割）以上の項目で対応できていると回答した者は、わずか35名（7.5%）であった。院内外のサポート状況については、1) 院内の同僚や上司：93.8%、2) 院内の医師：73.6%、3) 県内外の相談員等：63.0%といずれも高い割合でサポートを得ることが可能と回答していた。背景属性との関連では、専従の従事形態であることや、相談支援の従事年数が長いこと、研修受講経験が多いこととともに、院内の医師、県内外の相談員等からのサポートがある場合に、有意に整備指針で求められる対応ができている割合が高かった。

拠点病院の整備指針上求められる相談支援業務は、相談員からみて十分に対応できていない状況が示された。一方で、相談員の教育研修を含めた経験の多さや院内の医師や県内外のサポートが充足されることによって、拠点病院で求められる相談対応の充実にもつながる可能性が示唆された。検討結果をもとに、拠点病院として求められる全人的な相談対応の充実が目指しやすい環境を整えていくことが必要である。

A. 研究目的

2022年8月に改定の「がん診療連携拠点病院等の整備について」（以下、整備指針）では、「病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと」が明確に示され、拠点病院の体制の更なる見直しと充実が求められている。本研究では、がん専門相談員（以下、相談員）からみた整備指針上求められる相談支援業務の対応状況と院内外の支援状況との関連を検討し、今後の体制整備の示唆を得ることを目的とした。

B. 研究方法

2023年3月～4月に、相談員を対象に匿名自記式のWeb調査協力を依頼した。調査内容には、整備指針上求められる相談対応業務（予防・検診、がんの一般的/共生に関する情報提供、他部門/施設との連携を含むがんゲノム医療、希少がん等の相談対応）22項目の対

応状況と、相談対応時の院内外のサポートを尋ねた。前者は、対応する機会がない（0）を含む「対応できていない」～「ほぼ対応できている」の6段階で尋ね、後者は、1) 院内の同僚や上司、2) 院内の医師、3) 県内・全国の相談員等にすぐに相談やアドバイスを得ることが可能かを尋ねた。相談員の背景要因（施設・従事形態、研修受講等）および院内外の支援との関連を統計学的に検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請しないが、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より「審査不要（通知番号：6000-072）」の判断を得て実施した。また、対象者へは、本研究の目的・方法・倫理的配慮を記した説明文をよく読み、回答するよう依頼した。また、Web回答フォームは

「協力に同意する」にチェックした者のみ回答できるように設定した。

C. 研究結果

調査協力の同意が得られた相談支援業務に従事する465名のうち、整備指針に関する22項目について11項目（5割）以上で対応できていると回答した者は、149名（32.0%）、16項目（7割）以上の項目で対応できていると回答した者は、わずか35名（7.5%）であった。院内外のサポート状況については、1) 院内の同僚や上司：93.8%、2) 院内の医師：73.6%、3) 県内外の相談員等：63.0%といずれも高い割合でサポートを得ることが可能と回答していた。背景属性との関連では、専従の従事形態であることや、相談支援の従事年数が長いこと、研修受講経験が多いこととともに、院内の医師、県内外の相談員等からのサポートがある場合に、有意に整備指針で求められる対応ができていた割合が高かった。

D. 考察

拠点病院の整備指針上求められる相談支援業務は、相談員からみて十分に対応できていない状況が示された。一方で、相談員の教育研修を含めた経験の多さや院内の医師や県内外のサポートが充足されることによって、拠点病院で求められる相談対応の充実にもつながる可能性が示唆された。検討結果をもとに、拠点病院として求められる全人的な相談対応の充実が目指しやすい環境を整えていくことが必要である。

E. 結論

新たに整備指針が改定されたが、その個々の要素に関する実施状況については、これまで把握されていない。今回の調査では、相談員からみた主観ではあるが、相談対応業務についての実施状況の認識が示された。また実施状況に関連する背景もいくつか明らかになった。今回示された要素をもとにさらに詳細に検討を進めていくとともに、施策の対応にも活かしていくことが望まれる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

I 著書 なし

II 総説 なし

III 原著

1. Toh Y, Hagihara A, Shiotani M, Onozuka D, Yamaki C, Shimizu N, Morita S, Takayama T. Employing multiple-attribute utility technology to evaluate publicity activities for cancer information and counseling programs in Japan. *Journal of Cancer Policy*. 27:100261, 2021
2. Takayama T, Yamaki C, Hayakawa M, Higashi T, Toh Y, Wakao F. Development of a new tool for better social recognition of cancer information and support activities under the national cancer control policy in Japan. *J Public Health Manag Pract*. 27: E87-99, 2021
3. Takayama T, Inoue Y, Yokota R, Hayakawa M, Yamaki C, Toh Y. New Approach for Collecting Cancer Patients'Views and Preferences Through Medical Staff. *Patient Preference and Adherence*. 2021;15:375-385.
4. Toh Y, Inoue Y, Hayakawa M, Yamaki C, Takeuchi H, Ohira M, Matsubara H, Doki Y, Wakao F, Takayama T. Creation and provision of a question and answer resource for esophageal cancer based on medical professionals' reports of patients' and families' views and preferences. *Esophagus* 2021;18:872-879.

IV 症例報告 なし

V 学会発表

高山智子、齋藤弓子、奥野順子、花出正美、高橋朋子、小郷祐子、若尾文彦. がん専門相談員の診療ガイドラインの利用状況と利用意向の実態に関する検討. 第60回日本癌治療学会学術集会（神戸）.2022. 10.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

表1. 対象者の背景 (n=465)

	n	%
個人特性		
性別		
男性	50	10.8
女性	415	89.3
年代		
20代	25	5.4
30代	78	16.8
40代	189	40.7
50代	132	28.4
60代以上	41	8.8
施設背景		
病院種別		
がん専門病院	31	6.7
大学病院	94	20.2
総合病院	324	69.7
その他	16	3.4
拠点種別		
都道府県がん診療連携拠点病院 (地域がん診療連携拠点病院 (特定))	91	19.6
地域がん診療病院	297	63.9
都道府県指定のがんの拠点病院	21	4.5
その他、わからない	33	7.1
その他、わからない	23	5.0
従事/職種背景		
従事形態		
専従	219	47.1
専任	122	26.2
兼任	120	25.8
その他	4	0.9
職種2 (個人単位で分類) ^{注1)}		
看護系 (がん看護専門看護師、認定看護)	244	52.5
福祉系 (社会福祉士、精神保健福祉士)	164	35.3
心理系 (公認心理師、臨床心理士)	26	5.6
その他	31	6.7
がんの相談対応状況		
がん専門相談員としての経験年数 [平均±SD: 5.5±4.8 (rang)]		
~1年	40	8.6
2~3年	112	24.1
4~5年	98	21.1
5~10年	112	24.1
10年以上	103	22.2
相談対応件数 (月) [平均±SD: 48.2±55.7 (range:0-450)]		
0件	3	0.7
1~5件	76	16.3
5~10件	57	12.3
10~20件	61	13.1
20~40件	90	19.4
40~60件	55	11.8
60件以上	123	26.5
がん相談の研修受講および認定取得状況		
がん専門相談員の研修受講状況		
研修受講なし	4	0.9
基礎1, 2まで修了	122	26.2
基礎3まで修了	150	32.3
基礎3まで修了 + 指導者研修、ス:	189	40.7
院内の同僚・上司のサポート		
なし	29	6.2
あり	436	93.8
医師のサポート		
なし	123	26.5
あり	342	73.6
県内・全国のサポート		
なし	172	37.0
あり	293	63.0
3つのサポート合計		
すべてなし	8	1.7
1つあり	71	15.3
2つあり	158	34.0
3つあり	228	49.0
全国基礎研修 (3) ファシリテータ経験		
なし	320	68.8
1回あり	20	4.3
2-3回あり	12	2.6
4回以上あり	11	2.4
回答なし	102	21.9
県内主催・提供の相談員向け研修会の参加		
なし	31	6.7
1回あり	30	6.5
2-3回あり	104	22.4
4回以上あり	198	42.6
回答なし	102	21.9
県内主催・提供の相談員向け研修会でのファシリテータや講師経験		
なし	232	49.9
1回あり	44	9.5
2-3回あり	36	7.7
4回以上あり	51	11.0
回答なし	102	21.9
過去1年間の学術集会等への参加状況		
なし	139	29.89
1回あり	97	20.86
2-3回あり	152	32.69
4回以上あり	77	16.56

表2. 整備指針に関する22項目の相談員からみた対応状況

	ほぼ対応できている		まあ対応できている		どちらともいえない		あまり対応できていない		対応できていない		対応する機会がない		ほぼ・まあ対応できている(合計)		ほぼ・まあ対応できている(合計)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
<病院全体で対応できる体制を整備する>																
1.がんの予防に関する情報提供	22	4.7	130	28.0	138	29.7	102	21.9	14	3.0	59	12.7	152	32.7		
2.がん検診に関する情報提供	32	6.9	133	28.6	121	26.0	100	21.5	13	2.8	66	14.2	165	35.5		
3.がんの病態や標準的治療法に関する情報提供	57	12.3	214	46.0	109	23.4	59	12.7	11	2.4	15	3.2	271	58.3		
4.自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する医療機関に関する情報提供	68	14.6	231	49.7	96	20.7	47	10.1	7	1.5	16	3.4	299	64.3		
5.アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する情報提供	13	2.8	105	22.6	106	22.8	103	22.2	28	6.0	110	23.7	118	25.4		
6.H T L V - 1 関連疾患である A T L に関する情報提供	6	1.3	31	6.7	102	21.9	109	23.4	48	10.3	169	36.3	37	8.0		
7.セカンドオピニオンが可能な医師や医療機関の紹介	111	23.9	217	46.7	75	16.1	40	8.6	3	0.7	19	4.1	328	70.5		
8.高齢者のがん治療に関する情報提供	52	11.2	232	49.9	123	26.5	36	7.7	5	1.1	17	3.7	284	61.1		
9.患者の治療や意思決定の情報提供	87	18.7	274	58.9	80	17.2	18	3.9	2	0.4	4	0.9	361	77.6		
10.がん患者の療養生活に関する情報提供・相談支援	125	26.9	258	55.5	60	12.9	17	3.7	2	0.4	3	0.7	383	82.4		
11.就労（産業保健総合支援センターや職業安定所等との効果的な連携）に関する情報提供・相談支援	63	13.6	185	39.8	106	22.8	65	14.0	16	3.4	30	6.5	248	53.3		
12.経済的なことに関する情報提供・相談支援	117	25.2	226	48.6	69	14.8	43	9.3	6	1.3	4	0.9	343	73.8		
13.小児がんの長期フォローアップに関する情報提供・相談支援	8	1.7	19	4.1	63	13.6	68	14.6	49	10.5	258	55.5	27	5.8		
14.ピアランスクエアに関する情報提供・相談支援	61	13.1	207	44.5	87	18.7	65	14.0	16	3.4	29	6.2	268	57.6		
15.地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報収集・情報提供	36	7.7	157	33.8	131	28.2	69	14.8	31	6.7	41	8.8	193	41.5		
16.医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援	53	11.4	158	34.0	115	24.7	73	15.7	34	7.3	32	6.9	211	45.4		
17.相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取り組み	29	6.2	141	30.3	150	32.3	79	17.0	29	6.2	37	8.0	170	36.6		
<自施設での提供が難しい場合には、適切な医療機関を紹介する>																
1.がんゲノム医療に関する相談	64	13.8	143	30.8	70	15.1	68	14.6	35	7.5	85	18.3	207	44.5		
2.希少がんに関する相談	22	4.7	107	23.0	101	21.7	92	19.8	36	7.7	107	23.0	129	27.7		
3.AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談	21	4.5	137	29.5	114	24.5	69	14.8	26	5.6	98	21.1	158	34.0		
4.がん治療に伴う生殖機能への影響や、生殖機能の温存に関する相談	28	6.0	128	27.5	93	20.0	75	16.1	38	8.2	103	22.2	156	33.6		
5.障害のある患者への支援に関する相談	21	4.5	128	27.5	129	27.7	67	14.4	26	5.6	94	20.2	149	32.1		

表3. 整備指針に関する22項目の対応割合による状況

	n	%
～3割の項目でほぼ・まあ対応できていると回答		
6以下	133	28.6
3割～5割の項目でほぼ・まあ対応できていると回答		
7以上11未満（7-11項目）	148	31.8
5割（11項目）「以上の項目でほぼ・まあ対応できていると回答		
11以上16未満	149	32.0
7割（16項目）以上の項目でほぼ・まあ対応できていると回答		
16以上	35	7.5
合計	465	100.0

表4. 背景要因と指针对応状況（ほぼ・まあ対応できている項目数）の相関

	r	p
病院種別	-0.09	0.0515
病院種別 (reference: 総合病院)		
がん専門病院	-0.03	0.5475
大学病院	0.10	0.0282
その他	-0.10	0.028
病床数	0.09	0.0578
	-0.06	0.1895
拠点種別 (reference: 地域がん診療病院)		
都道府県がん診療連携拠点病院	-0.02	0.7193
地域がん診療連携拠点病院	0.10	0.0317
都道府県指定のがんの拠点病院	-0.02	0.6389
その他	-0.13	0.0043
性別 (reference: 男性)		
女性	0.00	0.9462
年代		
年齢	0.22	<.0001
経験年数	0.20	<.0001
従事形態	-0.27	<.0001
従事形態 (reference: 兼任)		
専従	0.24	<.0001
専任	-0.04	0.3344
その他	-0.05	0.3134
相談員の経験年数	0.32	<.0001
相談対応件数	0.37	<.0001
	0.38	<.0001
がん専門相談員の研修受講状況 (reference: 基礎3まで)		
研修受講なし	-0.02	0.6256
基礎1, 2まで修了	-0.28	<.0001
基礎3+ 指導ス研修、スキルアップ研修等	0.03	0.5811
院内の同僚・上司のサポート	-0.04	0.3927
医師のサポート	0.13	0.0057
県内・全国のサポート	0.34	<.0001
3つのサポート合計	0.29	<.0001

r=spearmanの相関係数